

Race Report

GT-CAR PRODUCE

— 2014 K耐久東海シリーズ 第5戦 2014年11月30日

「The 決着！」

2014K耐久/GT耐久東海シリーズの今シーズン最終戦となる第5戦が愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークで開催された。OPクラスのみシリーズチャンピオンが決定しているが、あとは僅差のクラスもあり、楽しみな最終戦となった。晩秋の蒲郡としては予想外に暖かく、各チームの関係者応援者なども多くが詰めかけた。



テンゴ Vitz 初優勝！ #11



こちらの初優勝は来年に！ #15



みごとに年間チャンピオン！ #70



まだまだ挑戦はおワンナイっ！ #92



大志を抱いて激走！！ #46

「1+2C」クラス（1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1600ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス）

10台がエントリーし、今大会で最も多くの台数を集めたクラス。ランクトップの#70「トータルセブン GT シビック」はマシンを黒シビックから、銀シビックに代え最終戦に挑む。ランク2位の#11「ガレージアンリミテッド」は第4戦でマーチからヴィッツに代え3位表彰台を獲得、上り調子で逆転タイトルを狙う。また、#15「シャトー・ラ☆フィット」は第4戦では2位に入り、いよいよ目指すは頂点。そして#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」やクラス1のリッターヴィッツたちなど見どころの多い戦い。

■予選

予選トップは#70「トータルセブン GT シビック」1'06.697、今回は40キロのウエイトがありながらも3戦連続のクラス最速。2位は前戦と同じく#15「シャトー・ラ☆フィット」1'07.364、3位は#11「ガレージアンリミテッド ヴィッツ」1'07.489、4位#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」1'07.491、実に多彩な顔ぶれが続く。5位は初参加の#39「MS-NCP 13CA ヴィッツ」1'07.549 でこちらもテンゴのヴィッツ。6位#92「ワンナイ ヴィッツ」1'08.961、7位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」1'10.079 はともにリッターヴィッツ、8位#870「自動車倶楽部マーチ」1'10.927、9位#27「PROFIT ヴィッツ」1'11.229、最後尾は#50「MSCJ 奈良ロードスター」1'11.559 の順で全車決勝進出。

■序盤

序盤の主役は#11「ガレージアンリミテッド ヴィッツ」、初のクラストップ走行で2位以下を引き離す。遅れずついていきたいのは#15「シャトー・ラ☆フィット」、#70「トータルセブン GT シビック」はさすがにウエイトが厳しいのか、銀シビックのフィーリングが違うのかいつものようなぶちぎり走行とはいかない様子。それでもシリーズチャンピオンに向けて抜かりはない。

中団グループでは、#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」、#92「ワンナイ ヴィッツ」、7位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」が上位進出をかけて争う。さらに#27「PROFIT ヴィッツ」、#870「自動車倶楽部マーチ」、#39「MS-NCP 13CA ヴィッツ」、#50「MSCJ 奈良ロードスター」もほぼ同一周回で競り合っており、どこが抜け出すか注目。ここまでそれぞれのポテンシャルにさほどの差がないのか混戦となっている。

Race Report

■中盤

#11「ガレージアンリミテッド ヴィッツ」は中盤もトップをキープ。1~2Lap の差をつけてレースをコントロール。それ必死で追うのは#15「シャトー・ラ☆フィット」、#70「トータルセブン GT シビック」。終盤での逆転のためにはここで置いていかれるわけにはいかない。

それは中団グループも同じ、3~4台の集団の中から、#92「ワンナイ ヴィッツ」が抜け出しそうになるが、#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」と#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」が待ったをかけ、さらにその次の集団では#27「PROFIT ヴィッツ」と#39「MS-NCP 13CA ヴィッツ」、#50「MSCJ 奈良ロードスター」が争っている。#870「自動車倶楽部マーチ」は現在最下位だが、離れずについていきたいところ。

■終盤

終盤に入ってもまだまだトップを行く#11「ガレージアンリミテッド ヴィッツ」、しかしながら#15「シャトー・ラ☆フィット」、#70「トータルセブン GT シビック」の2台が追いついてきた。<#11「ガレージアンリミテッド ヴィッツ」と#15「シャトー・ラ☆フィット」はどちらが勝っても初優勝。#70「トータルセブン GT シビック」は今季4勝目を狙う。もちろんこのまま3位でも年間タイトルは確定なのだが、チャンピオンらしくトップでゴールを狙う。

中団争いも激化、#92「ワンナイ ヴィッツ」、#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」はほぼ3Lap の中、各車残り一回程度のピットストップを残しており逆転あるいは3位表彰台への挑戦をかけて競り合っている。



赤ヴィッツ青ヴィッツ金ヴィッツ 早口で言ってみよう



注目の2台の直接対決！
軍配は#11に



久々の完走おめでとう #67



1500のVitzが増えてます #39



こちらはリッターヴィッツ #27



唯一のFR #50



初参加で見事完走 #870



こちらではマツダ車対決

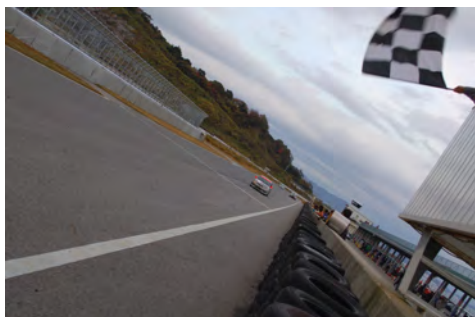
■最終結果

最終的に優勝を飾ったのは#11「ガレージアンリミテッド ヴィッツ」、最終盤のピットストップ時に#15「シャトー・ラ☆フィット」が前に出るシーンもあったが、終わってみれば1Lapの差をつけて初優勝。NCP型1500ヴィッツもクラス初勝利となった。2位は惜しくも初優勝を逃した#15「シャトー・ラ☆フィット」、3位はウエイトにの影響もあったか#70「トータルセブン GT シビック」、それでも追い込みはさすがにチャンピオンチーム。中団を抜け出した#92「ワンナイ ヴィッツ」が4位、5位は#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、6位はバトルをし愉しみつつ久しぶりの完走#67「CRAZY FORCES VEX デミオ」、7位#39「MS-NCP 13CA ヴィッツ」、8位は#27「PROFIT ヴィッツ」、9位#50「MSCJ 奈良ロードスター」、10位#870「自動車倶楽部マーチ」まで全車完走！

■総評

タイトルは3勝をあげた#70「トータルセブン GT シビック」でまたもEK3がチャンピオンだったが、GE8フィットや1500ヴィッツなどのマシンが速くなった。とくにこの3車はラップタイムは5秒台でそんな色なし、さらにデミオも6秒台と各マシンの速さは接近しておりこれが混戦となっている。

日本においてはバリバリのスポーツモデルではない1500(1000)マシンたちだが、それらをうまく走らせるのは、実は難しく、実に楽しい・・・そんな1+2クラスの発展を期待したい。



テーマはアリス♥



2014シーズン表彰





「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス）

3Cクラスも盛況、9台のエントリーを集めた。年間争いは激化しており、ランキングトップの#450「トルネオの大冒険」が64P、それを4P差で#87「IDI瀬戸自動車 SYC シビック」が追い、さらに5P差で#62「WM☆ワコーズ☆CLNシビック」と三つ巴の争い。

そして注目は、#110「DXLアライメント浜松レビン」、第2戦でこのマシンを投入するとデビュー戦では予選トップ、第3戦で3位、そして第4戦では2位、このままいけば・・・さらにAE111といえば長らくこのクラスで活躍してきた#111「S'tecAE-1ファジートレノ」もこのマシンで走るのは最後とのこと。

第4戦で初登場の#24「オートディレクション ミニ」はどこまでセッティングが進んだか。さらには初参戦の#91「アイビスインテグラ」の実力はどうか、見どころ満載のシーズン最終戦。



とうとう頂点に！ #110

■予選

予選トップを奪ったのは、#110「DXLアライメント浜松レビン」1'02.265 コンディションの違いはあるが前回よりタイムアップ。今シーズン2回目の予選トップと速さはモノにしたようだ。2位はウエイト20キロの#87「IDI瀬戸自動車 SYC シビック」が1'02.456 でつけ、3位#450「トルネオの大冒険」1'02.528 とここまでが2秒台、ホントに皆さん速くなりました。

4位は#22「NAHレーシング S2000」1'03.466、5位は#106「D&M スパイクオート106」1'03.539、6位は#62「WM☆ワコーズ☆CLNシビック」1'03.896 と3秒台が並ぶ。

7位#111「S'tecAE-1ファジートレノ」1'05.236、8位#91「アイビスインテグラ」1'08.148、9位#24「オートディレクション ミニ」1'08.498。



今回はわずかに及ばず #87

■序盤

予選上位のうち、#110「DXLアライメント浜松レビン」と#450「トルネオの大冒険」ははやめのピットインを選択、トップは#87「IDI瀬戸自動車 SYC シビック」、少し遅れて2位#111「S'tecAE-1ファジートレノ」、3位#91「アイビスインテグラ」、4位#22「NAHレーシング S2000」、5位#24「オートディレクション ミニ」。

6位以下はピットイン組の#110、7位#450、8位#62「WM☆ワコーズ☆CLNシビック」、9位#106「D&M スパイクオート106」。

久々の上位走行の#111「S'tecAE-1ファジートレノ」だったが、最初のピットイン時ハブトラブルが発覚し、急ぎよ交換作業となる。第4戦では最終盤にリタイヤとなっているだけに、順位は下がるがしっかりとケアできたのはよしとしたい。



未勝利ながら見事チャンピオン！ #450

■中盤

中盤ではやはり実力のあるチームがトップを争う。トップは#87「IDI瀬戸自動車 SYC シビック」、2位には#110「DXLアライメント浜松レビン」、3位には#450「トルネオの大冒険」がつけ、そのすぐあとにも#62「WM☆ワコーズ☆CLNシビック」が1Lapのなかで競り合う。

中団でも#22「NAHレーシング S2000」と#106「D&M スパイクオート106」、#91「アイビスインテグラ」あたりが同一Lapと激しい。#24「オートディレクション ミニ」も2回目の出場ペースは上がってきた。修復の済んだ#111「S'tecAE-1ファジートレノ」も巻き返しにかかる。



表彰台までは届かず #62

Race Report

■終盤

終盤戦、トップに立ったのは#110「DXL アライメント浜松レビン」、いよいよかつてのチャンピオンの本領発揮か。しかし、同一周回で#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」がおいかけ、3位の#450「トルネオの大冒険」と#62「WM☆ワコーズ☆CLN シビック」も一発逆転を狙っており全く予断を許さない。

表彰台をかけての争いも熾烈、上位の3台に追いつこうと、#22「NAHレーシング S2000」と#91「アイビスインテグラ」のホンダ車が競り合う。その下ではプジョー VS ミニクーパの輸入車対決となっており、バラエティのとんだ戦いが見られる。

■最終結果

栄光のトップチェッカーは#110「DXL アライメント浜松レビン」、シティ時代に載りつくした頂点に帰ってきた。2位には7秒及ばず#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」。3位には#450「トルネオの大冒険」が入り表彰台が確定。

4位は#62「WM☆ワコーズ☆CLN シビック」、5位#106「D&M スパイクオート106」、6位#91「アイビスインテグラ」、7位はレース序盤のトラブルから立ち直ったの追い上げが見事だった#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」、8位は前回よりタイムアップした24「オートディレクション ミニ」。

142Lapで7位相当の#22「NAHレーシング S2000」だったが、チェッカーを受けられず、最下位完走扱いに。



なかなかの速さ、今後に期待 #91



次はなんだって～もちろん 111 だそうです！



やはり華があるね #24





晩秋とはいえ結構熱いんです



ななみんのサイン入りオイル 燃え～



■総評

1年間の激闘の結果、シリーズチャンピオンを獲得したのは#450「トルネオの大冒険」。優勝こそなかったが全戦表彰台で、2位の#87「IDI 瀬戸自動車 SYC シビック」をわずか1P差で振り切った。

思えば、このマシンも重量的に不利と言われてきたが、着実にポテンシャルを上げての栄冠、来シーズンの課題は念願の初優勝だ。

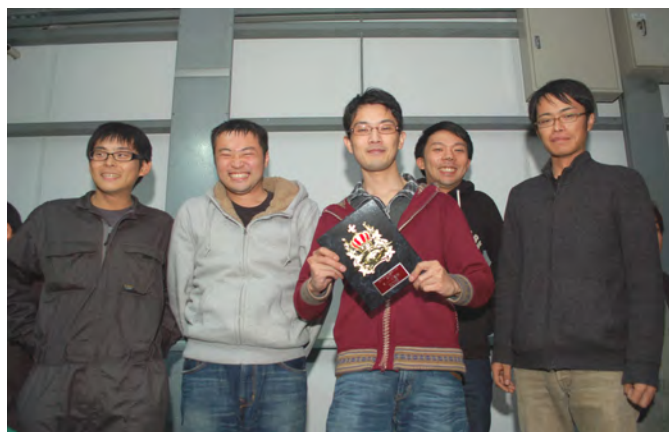
#110「DXL アライメント浜松レビン」も同様、OPクラスでの速さを取り戻しての”定位置”復帰。いよいよレビンもものにしたようだ。

初参加の#91「アイビスインテグラ」もレース中の最速Lapは3秒台前半をマークし、さすがの速さを見せた。熟成が進めば速さではクラス最速の#87とも渡り合えるかもしれない。

もう一つの見どころ輸入車、第4戦・5戦と連続出場のミニクーパー。着実にポテンシャルアップを感じさせ、なによりブジョーともどもレースが華やかにしてくれた。いろんなマシンが暴れまわる。それがこのクラスの魅力。



2014 シリーズ表彰





ほぼ完ぺきなレース運び #19



今季最高位！ #84



今季 2 回目の表彰台 Get #1



今回は少し及ばず 4 位 #107



初参加ながら速さは上々 #504

「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

ここまで優勝が2位かという成績でほぼ文句なしの成績で、第4戦で今シーズンのチャンピオンを決めた#19「YADOKARIシビック」、今シーズンの3勝目がかかる。K耐久で#14の石山選手が乗る#84「浜松日産withメビウスマーチ」も注目、他2位表彰台の第3戦以来となる#1「ミュルサンヌMR-S」、#107「トータルセブンロードスター」に初参加の#504「GOQレーシングロードスター」を加えた5台がエントリー。5台中3台がオープンカー、うちNAとNBロードスターというラインナップ。

■予選

予選はやはり#19「YADOKARIシビック」がやはり強い、唯一の1秒台となる1'01.334で全体のPP。2位はオーバーフェンダーがカッコいい#84「浜松日産withメビウスマーチ」1'04.604、3位は初参加の#504「GOQレーシングロードスター」1'05.064、4位は#1「ミュルサンヌMR-S」1'05.469、5位は#107「トータルセブンロードスター」1'09.833。

■序盤

序盤から#19「YADOKARIシビック」がレースをリードする。2番手争いは#84「浜松日産withメビウスマーチ」を中心に、#107「トータルセブンロードスター」、#1「ミュルサンヌMR-S」、#504「GOQレーシングロードスター」とオープンカー軍団がしのぎを削る。#1「ミュルサンヌMR-S」はオープニングラップでスピンを喫するが事なきを得、すぐさま戦線復帰！

■中盤

中盤ではやくも独走態勢を固めた#19「YADOKARIシビック」、1時間30分経過で2位以下に8周ほどのGapを築き、レースをコントロール。一方2位以下は混戦模様、2位集団の頭は#84「浜松日産withメビウスマーチ」だが、ほぼ同Lapで#107「トータルセブンロードスター」と#1「ミュルサンヌMR-S」が追いかけてくる。#504「GOQレーシングロードスター」は少し遅れたか、ここはしっかりとついていきたいところ。

■終盤

終盤になっても#19「YADOKARIシビック」がトップ、そして2位争いは相変わらず混戦、#84「浜松日産withメビウスマーチ」を#107「トータルセブンロードスター」と#1「ミュルサンヌMR-S」がピッタリとマーク。ここは同時に表彰台をかけた争いでもあり、2位争いのうち一台が届かないということに。

■最終結果

最後総合優勝こそ3Cクラスに譲ったが、#19「YADOKARIシビック」が万全のレース運びで今季3勝目。これできれいに1-2-1-2-1と並べ、年間チャンピオンに花を添えた。

熾烈を極めた2位争いは84「浜松日産withメビウスマーチ」が逃げ切り、3位はオープンカー争いのかな#1「ミュルサンヌMR-S」が競り勝ちポディウムへ。4位#107「トータルセブンロードスター」は表彰台まで1Lap及ばず。5位#504「GOQレーシングロードスター」も初出場ながら見事完走、レース中の最速Lapを4秒台前半を記録するなど印象に残る活躍をした。

Race Report

■総評

改造車クラスとなる OP クラスは#19「YADOKARI シビック」がタイトルとなったが、オーバーフェンダーのマーチ、オープンカーたち、さらには韋駄天自慢のインテグラなど多彩な車種をベースに、ストリートカーではあまり味わえない、“レーシング”感覚満点のクラス。

ホモロゲ切れなどで、走る場所のなくなったかつての JAF レース車などを走らすのにもよいクラスかと思われる(音量等はしっかりと対策する必要はあるが)ぜひこのクラスに注目してほしいものだ。



すぐさま戦線復帰！！



見事完走のチェッカー



2014 シーズン表彰

